

平成21年度新規事業評価調書

【漁場整備開発事業】

農林水産局水産課

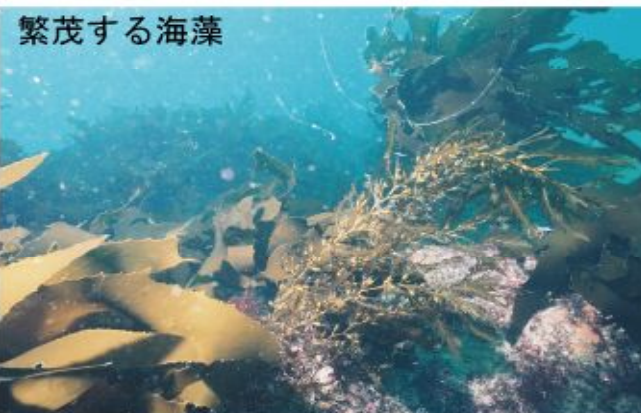
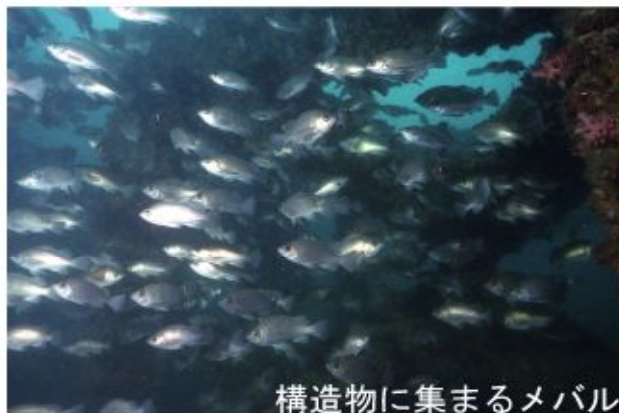
事業評価調書（新規）

事務所名 (課名)	水産課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	水産課長 山村 雅雄 (課長補佐兼漁場整備係長) (高木 英男)	内線	4149 (4163)
--------------	-----	---------------------	--	----	----------------

事業種目	漁場整備開発	事業名	事業区間	総事業費	4億円
		増殖場造成事業	阿万地区	内用地補償費	一億円
所在地				事業採択 予定年度	着工予定 年 度
南あわじ市阿万地先				H21	H21
事業目的			事業内容		
<p>マダイ等の魚種の主な産卵場、越冬場に近く、また多くの魚種の回遊ルートにあたるため増殖場の造成適地である南あわじ市阿万地先において、自然石、保護礁、餌料培養礁を設置して増殖場を造成することにより、稚魚等の育成に適した藻場などの漁場環境の整備を行い、海の生産力の向上を図る。</p>			<p>対象生物：メバル、カサゴ、スズキ、マダイ等 事業量：30ha (自然石、保護礁、餌料培養礁設置) 事業主体：兵庫県 事業費内訳：国：1/2， 県：1/2</p>		
評価視点	評価結果の説明				
(1) 必要性	<p>当該海域は、瀬戸内海東部における、マダイ等の魚種の主な越冬場、産卵場に近く、また、多くの魚種の回遊ルートにあたるため、水産資源の維持増大を図るための重要な海域であるが、マダイ等稚魚の育成場所となる藻場や磯場は、点在しているものの不足している。</p> <p>そこで、本海域に事業を実施することで、周辺漁場や既存の藻場、磯場ともネットワーク化することができ、効果的な海の生産力向上が見込まれるため、本事業の必要性は高い。</p>				
(2) 有効性・効率性	<p>年間の漁業生産量は32トン（約3千万円）の増産が見込まれ、漁獲された魚は仲買人を通して県下に流通するとともに、地元の民宿等でも消費され、当地区の地域活性化への貢献は高い。</p> <p>水産物の増産期待量から算出した水産物の生産性向上（漁家所得の増加）と地域産業の活性化（流通量の増大による便益）の見込みから算定した費用便益比（B/C）は1.21であり、事業の有効性は高い。</p>				
(3) 環境適合性	<p>増殖場造成で藻場が造成されるなどによって、生息する生物の種類や量の増加が図られ、周辺海域の環境創造が期待される。</p>				
(4) 優先性	<p>当該海域は、前述のとおり瀬戸内海東部におけるマダイ等の主な越冬場や産卵場に近く、多くの魚種の回遊ルートにあたるため、事業を実施することで、その効果は本県瀬戸内海の広範に及ぼされ、県全体の水産資源増大につながるため優先性は高い。</p>				

増殖場造成事業（阿万地区）位置図

対象魚種



総事業費 4億円
造成面積 30ha
増産期待 32トン
費用対効果 1.21

目的
対象魚種の、
エサ環境の改善
隠れ場の整備
藻場の造成

設置魚礁

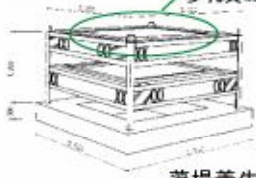
保護礁

藻場着生基質
多孔質コンクリート板

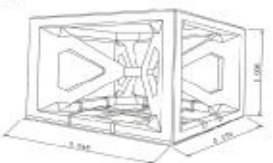


餌料培養礁

藻場着生基質
多孔質コンクリート板



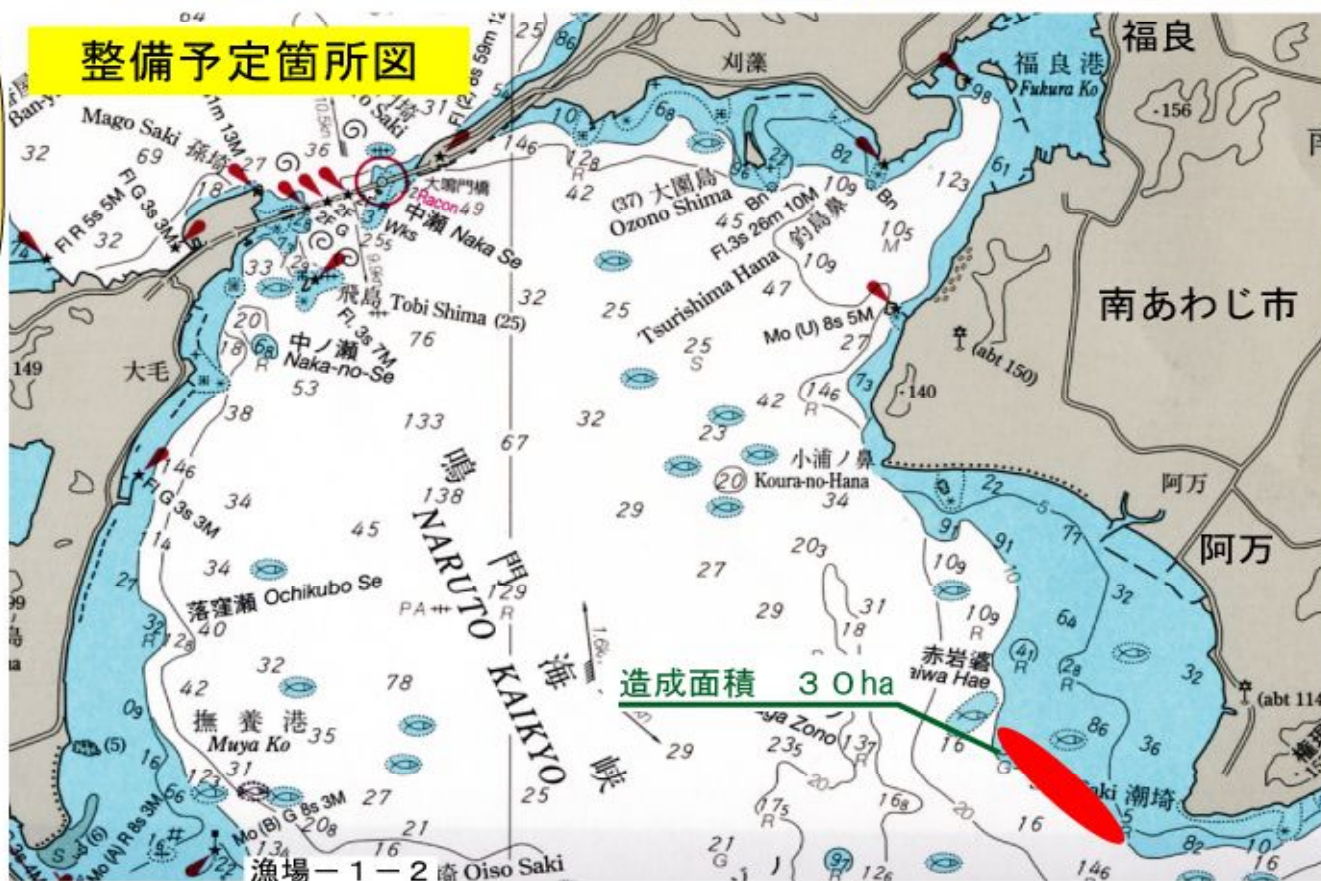
保護礁



自然石



整備予定箇所図



工程表

	H21	H22	H23	H24	H25	H26
測量・設計	■					
増殖場造成	■	■	■	■		

B/C根拠説明資料

便益(B)の項目

事業	B(便益)	算出方法
漁場	①漁獲量増大による便益 増殖場造成海域で成育した対象魚種の漁獲量・金額	増殖場の単位面積当たりの対象魚種の生産量×造成規模(ha)
	②流通量の増大による便益 流通過程における付加価値効果	(消費地価格－産地市場価格)×流通量

費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		代表的な効果	C(費用)			B/C
		便益額 (百万円)			総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)	
漁場	阿万地区増殖場造成事業	①漁獲増による便益	13.7	漁獲量の増＝ 流通量の増 32トン(年間)	363	400	0	1.21
		②流通量増による便益	13.5					
		計 (総便益額)	27.2 (438)					

※ 総便益、総費用とも平成20年を基準年として現在価値化した額の分析対象期間中の合計。

※ 社会的割引率は4%、分析対象期間は事業完了後30年。